

令和5年度PTA活動振興功労者表彰

氏名	主要PTA経歴	功 績 概 要
山田 洋子	広島県PTA連合会 元副会長	<p>広島県PTA連合会副会長として、「PTA活動の活性化が不可欠である」との理念の下、各郡・市PTA連合会に対し、研修や活動内容について、様々なアドバイスや情報提供を行うなどの支援を行い、各郡・市PTA連合会の課題解決や活動の活性化に貢献することともに、団体相互の連携強化に寄与した。</p> <p>また、公益財団法人日本PTA全国協議会副会長として、主催行事である全国小・中学校PTA広報紙コンクールでは、コロナ禍で休校や行事の中止が相次ぎPTA活動が滞ったことで、広報紙が例年通り発行できない状況を考慮し、応募条件を見直すなど、柔軟な対応方針を打ち出し、単位PTAからの応募の増加に向け、強いリーダーシップを発揮した。</p>
角田 優	広島市立幟町小学校 PTA会長	<p>広島市立幟町小学校PTA会長として、コロナ禍で検討事項が多い教職員の負担軽減のため、「保護者に関わることはPTAで行う」という方針を明確に示し、実践した。</p> <p>また、児童の陸上大会や水泳記録会、スピーチコンテストなどの参加費や交通費を補助し、児童が参加しやすい環境をつくり、持てる力を学校外で披露し、さらに自信を高めることができるよう尽力した。また、専門的な外部講師を招き、児童の力量を高めることに貢献するとともに、教職員の負担軽減も図った。</p>
藤井 裕久	福山市PTA連合会 会長	<p>福山市PTA連合会会長として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進む中、令和3年度に、いち早く、福山市内の全ての公立小・中学校に、消毒液の寄贈を行い、児童・生徒の感染症対策に寄与した。また、長期にわたるコロナ禍の中で、給食時間も黙食で会話を我慢したり、楽しみにしていた行事が中止になった子供たちや、学校行事の中止などが重なり、やりきれない思いを持ちながらも、感染対策を講じながら授業を続ける教職員に対する感謝とエールの意を込めた打ち上げ花火や、各校のPTA役員代表から子供たちや教職員に対するメッセージを集めた動画の作成・提供などを企画・実施するなど、会長として強いリーダーシップを発揮した。</p>
道城 俊二	福山市PTA連合会 前会長	<p>福山市PTA連合会会長として、70周年記念式典の運営を総括するとともに、保護者等向けの記念講演会や各校長会、地域の方を交えた祝賀会の開催において中心的な役割を果たした。</p> <p>福山市立川口小学校PTA会長として、コロナ禍で地域の方々を元気づけるため、児童の制作した絵灯籠の展示会を地域で開催し、コロナ禍での地域交流及び活性化に貢献した。</p>
大塚 佐知恵	福山市PTA連合会 元会長	<p>福山市立幸千中学校PTA会長として、年3回程度開催していた少人数を対象とした講演や制作活動の内容を見直し、多くの保護者、生徒、教職員が参加できる教育講演会（約700名が参加）を年1回開催することとし、より多くの者に学びの機会を提供できるように仕組みとするとともに、参加が出来なかった者に対しては、広報誌の紙面を活用し、情報提供できるような仕組みとした。さらに、福山市PTA連合会や県P連が主催する講演会への参加についても、会員に積極的に声掛けを行うなどにより、参加を促し、多様な学びの機会の提供に努めた。</p>
伊福 聡	広島県高等学校PTA 連合会 前会長	<p>広島県高等学校PTA連合会（以下「県高P連」という。）会長として、県高P連各地区会長に対し、コロナ禍で活動自粛が求められる中で、感染症対策を行いながら工夫して行っている活動について、情報提供を呼びかけ、収集し、県高P連各地区の活動を広報で紹介することにより、県内のPTA活動の活性化を図った。また、平成30年7月の西日本豪雨災害で罹災された家庭に対して、幹事会の了解を取り、いち早く県高P連から見舞金を贈るとともに、各単位PTAに対し義援金を募り、罹災された家庭に贈り、生徒の学習環境の復旧に尽くした。</p>
土谷 流廣	広島県高等学校PTA 連合会 事務局長	<p>県高P連事務局長として、県高P連70周年にあたって制作した記念誌について、全体の構成、執筆案などを企画し、会員の意見も踏まえながら制作に尽力した。また、県高P連事務局長として、各学校が独自に取り組んでいたあいさつ運動を、11月1日の「ひろしま教育の日」に全県一斉あいさつ運動として実施することを提案し、実施に向けて、あいさつ運動のポスター原画募集を企画・実施したり、のぼり旗を制作するなど、気運醸成を図るとともに、広く活動の周知を行った。</p>

※ 被表彰者の主要PTA経歴は令和5年3月31日現在